

## 私の学生時代

看護福祉学部  
臨床福祉学科

准教授 佐藤 園美



紆余曲折しながら現在に至る私の人生で、「学生時代」と聞き最初に思い浮かんだのが、日本社会事業学校(日本社会事業大学に併設)研究科での日々です。バックグラウンドが全く異なる約80名とともに一緒に机を並べ、福祉について真剣に学んだ1年間でした。学生の年齢は23歳(大学卒業直後)から50代後半、福祉の分野で長く働いてきた人たちもいれば、それまで福祉とは全く縁のない会社等で仕事をしてきた人(私もその一人)も少なからずいました。一人ひとり何らかの事情や決意を胸に、卒業後は福祉の分野で専門職として仕事をしようと決めた人たちです。

各科目を担当する教師陣は、日本社会事業大学の先生方をはじめとして、当時福祉の各分野で第一人者と言われた人たちでした。授業ではディスカッションも頻繁に行われ、全く違った経験や価値観を持つ人たちが活発に意見を戦わせる討議の内容は、とても興味深いものでした。例えば、1982年にアメリカで起こった「ベビー・ドゥ事件(重い障がいをもつ新生児の治療停止の問題)」に関するクラス全体での討議では、様々な登場人物の思いについて述べていく中で、いつの間にか「子どもを産み育てること」への男女の価値観の違いが浮き彫りになりました。体験も踏まえ語るクラスメイトの言葉に、一人ひとりが真剣に考え発言する、熱気を帯びた授業の様子が今でも目に焼き付いています。まっすぐな学生の眼差しは、時に授業の内容に対する質問



クラスの中で8名だけが日本社会事業大学の学生寮で暮らしていました。写真はその仲間たち。真ん中にいるのが私です。

や疑問として先生方へぶつけられることもあり。ある先生は「研究科での授業は私たちにとっても学ぶことが多く、いい加減な準備で授業はできません。真剣勝負みたいですね」と笑っていらっしゃいました。

1年間で国家試験の受験資格取得をめざすカリキュラムだったため、課題提出や勉強に追われる大変な日々で、苦しいことや困ったこともたくさんあったはずなのに、

当時のことを思い出すと、個性的な人たちと豊かな時間を一緒に過ごせて「楽しかったなあ」という感覚だけが残っています。

# 私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は佐藤 園美准教授と桜庭 聡助教のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

## 私の学生時代

リハビリテーション科学部  
作業療法学科

助教 桜庭 聡



私が学生時代を過ごした北海道大学に入学したのは13年前、そのまま大学院博士後期課程修了までトータル9年間という長い学生生活を送りました。入学当初は「どのサークルに入ってやろうか?」などとワクワクしていたのですが、当時自分が見学したテニスのサークルはほとんどがいゆる「飲みサー」。テニスなんてお飾り程

度の活動でアフターの交流会がメインイベントでした。かと言って、部活のような意識高い活動も求めていなかった中途半端な自分は、どのサークルにも所属することなく、大学の講義が終わったらそそくさと浪人生の時にお世話になった某予備校でのアルバイトに向かう日々。サークルとのご縁が無かったのでしょね。その代わり、予備校のアルバイトでは社会集団の中で働く心構え、生徒さんへの学習指導や進路指導の方法、今でも交流がある一緒に働いた先輩後輩など本当にかけがえのないものを得ることができました。「お金を稼ぐ」というよりも単にお試し感覚で社会経験を積みたいだけでアルバイトを始め、大学4年生で長期実習が始まったらスパッと辞めてしまえ…などとよこしまな考えを持っていたことが伝わってしまったのか、バイトリーダーなども押しつけられてしまい、ズルズル続けて気がついたらほぼ9年間やり続けていました。今思うと、アルバイトでやっていた学習指導や進路指導などは「おまごとレベレ」だったの



洞爺湖にみんなで旅行に行ったときの写真(背景は真暗ですが…)。下で寝そべっているのが私。学生のうちはよくみんなで温泉やキャンプなどに行きました。

かも知れませんが、この9年間で培った経験は確実に今、生業としているところに生きていることを実感します。大学生の時は、自分が大学教員になる考えなど毛頭無く、作業療法士として臨床で患者さんとワハハと笑いながらリハビリをして、先の飲みサーでいうテニス活動のようにオマケ程度に研究ができれば良いな、としか考えていませんでした。ですので、アルバイトをしている時には、これが将来の仕事に、しかもこれほどにも直接的に役に立つなど夢にも思いませんでした。今後の人生で役に立つものが何であるかなど、それを得た時点ではわかりっこない、と、人生のことなど語るにはまだまだ早いのですが、日々の小さな経験も将来どこかで役に立つのでは無いかと、密かに考えながら過ごしています。



アルバイトの先輩後輩みんなが企画してくれたサプライズパーティー。中央下のスーツ姿が私。大学のサークルには入れませんでしたが、和気藟々とした雰囲気は居心地が良く、現在でも交流のある先輩後輩がたくさんいます。